

妙法寺だより

今を生きる智恵と勇気ともに学び歩むお寺

VOL. 263

春号

3

2026 SPRING
季刊誌2026年3月発行



- ・ 春季彼岸会法要 どうぶつ供養祭 ご案内
- ・ 浄心道場のご案内 春のイベント
- ・ 地獄VR開催情報
- ・ COFFEE TIMEは「加藤清正公」について

三月二十日（春分の日）

春季彼岸会法要

午後二時より

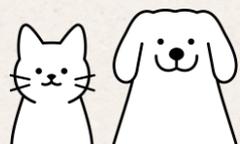
お彼岸期間 三月十七日～二十三日



お彼岸期間中 ご自由にお参りいただけます

お彼岸が始まります17日までに、卒塔婆にお経を上げ、ご供養いたします。お彼岸期間中は、ご自由に本堂でお焼香され、卒塔婆をお持ちいただけます。

卒塔婆の申込は3月13日必着にてお願いします



どうぶつ供養祭 午前11時より

3月20日（春分の日）午前11時より本堂にて「どうぶつ供養祭」を行います。納骨されている方をはじめ、ペットを亡くされた一般の方もお参りいただけますので、ご参列、ご焼香ください。

◎ 納骨をされている方には専用の卒塔婆申込用紙を本紙に同封いたします。

◎ 納骨をされていない方で卒塔婆供養をご希望の方はお問合せください。

お布施

お布施袋

お布施袋をご利用ください

供養料・卒塔婆料は、お布施袋にお納めいただき受付にお渡しください。
表面にはお名前を裏面には内訳や合計金額をお書きください。



生花・お線香

生花・お線香を販売しています

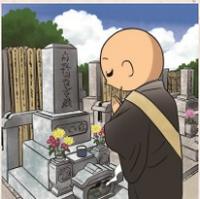
お彼岸期間中は、受付にてお墓参り用の生花を販売しております。
◎生花（お線香付き）：1対 1500円または2500円 ◎お線香：1束 100円



駐車場

臨時駐車場を開放いたします

お彼岸期間中は、墓地裏口（小学校側）を臨時駐車場として開放しております。
小学校の前の道路は、朝8時30分まで、スクールゾーンのため車両進入禁止になっておりますのでご注意ください。



お墓参り

卒塔婆を代わりに墓地へお供えします

さまざまな事情によりお墓参りに来られない方、卒塔婆を墓地に供えるのが難しい方など、申込用紙にその旨をお書き添えください。代わりに墓地にお供えいたします。

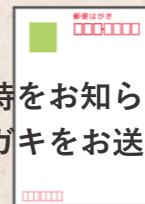


棚経

地元 お彼岸棚経の日程

- 17日：中村地区 3・4丁目方面
- 18日：下地区 2丁目
- 19日：金房地区
- 21日：上矢部 羽根沢 南本宿
- 22日：歌舞伎1丁目

日時をお知らせする
おハガキをお送りします



浄心道場のご案内

◎ 3月 8日 (日) 14:00～

【法話は住職が担当いたします】

◎ 4月12日 (日) 14:00～



千葉公慈 先生

心を照らす仏の教え ～生きる力と仏教～

釈尊は、初期仏典において仏弟子たちに多くのメッセージをのこしています。それは時代を超えた金言であり、生きる力を呼び覚ます「知恵の宝庫」でもあります。このたびは、私たちの日常を振り返るために、インドの原始仏典の名句をめぐって、仏教の説く生きる力とは何かをともに考えてみましょう。

【住職からの紹介文】テレビ番組「ぶっちゃけ寺」にて、中心的な存在で仏教を深く、やさしく伝えてこられた千葉先生。10年経った今も多くの方々の記憶に深く残っております。現在は東北福祉大学の学長として重責を担われており、今回のご登壇は大変貴重な機会となります。

地獄VR開催情報

◎ 3月15日 (日) 午後3時より

◎ 4月 5日 (日) 午後3時より

妙法寺本堂で開催

ご希望の方はQRコードよりチケットをご購入ください。

チケット購入はお早めに！



妙法寺の春の行事

はなまつり（釈尊降誕会）

4月4日（土）～4月8日（水）終日

本堂前にお釈迦さまの降誕仏を奉安し、どなたでも甘茶をかけて、ご参拝いただけます。妙法寺自慢の桜もぜひご一緒にお楽しみください。



夜桜 ライトアップ

夜桜のライトアップは、桜の開花と共に行います。詳細は妙法寺のオフィシャルSNS（Facebook・Instagram）でお知らせいたします。

LINE

妙法寺公式 LINE

妙法寺のさまざま
な情報をお届け
します



メディア出演情報

TBS「マツコの知らない世界」に
「地獄VR」が登場！

毎週火曜 夜8:55～放送の人気番組、TBS「マツコの知らない世界」に地獄VRが紹介されることになりました。

【特集：地獄の世界】「地獄を体験できるスポット」として紹介予定です。どうぞお見逃しなく！

※放送日は未定なので、確定次第SNSでお知らせします。



法華經の鎧をまとった 戦国最強の武将 加藤清正

前号の妙法寺だよりでお話させていただきましたが、現在放送中の大河ドラマ「豊臣兄弟！」におきまして、仏事指導の大役を仰せつかりました。そのようなことから、今回の「住職のCOFFEE TIME」では、日蓮宗と縁の深い、ある一人の戦国武将についてお話ししたいと思います。

築城の名手「加藤清正公」

皆様は、豊臣秀吉公に仕えた熊本城主「加藤清正公」をご存知でしょうか。大河ドラマにも登場する清正公は、「虎退治」や「築城の名手」として有名ですが、実は生涯を通じて熱心な日蓮宗の信仰を持っていた方でありました。賤ヶ岳の戦いでは「七本槍」の一人として名を馳せ、武勇だけでなく土木や治水の才も発揮。彼が築いた熊本城は日本三名城の一つに数えられています。朝鮮出兵では「鬼將軍」と恐れられるほどの強さを見せました。このように武人・政治家として非凡な才能を発揮した清正公ですが、その強靱な精神力の根底には、幼い頃から培われた深い信仰心がありました。

法華經信仰に篤い清正公

清正公がこれほどまでに熱心な日蓮宗の信仰を持ったきっかけ。それは、母・伊都（いと）の影響に他なりません。清正公の父は彼が幼い頃に亡くなり、母は女手一つで清正公を育て上げました。この母が、大変に信心深い日蓮宗の信徒であったのです。母は日々の暮らしの中で絶えずお題目を唱え、幼い清正公にも「南無妙法蓮華經」の教えを説いて聞かせ



ました。母の背中を見て育った清正公にとって、お題目は単なる経文ではなく、母の愛そのものであり、自らの魂を守る最強の盾となっていたのではないのでしょうか。その信仰の深さは、戦場において彼が掲げた「旗印」にも色濃く表れています。多くの武将が家紋や独自の意匠を旗印にする中、清正公が掲げたのは、「南無妙法蓮華経」の七文字でありました。生死が紙一重の戦場において、彼は常にお題目を掲げ、仏天の加護を信じて突き進んだのです。



加藤清正公の誕生地である
名古屋市 妙行寺の
加藤清正公の銅像
前立と旗印に南無妙法蓮華経

清正公の甲冑に秘められた秘密とは

さらに驚くべきは、清正公のトレードマークとも言えるあの長大な兜、「長烏帽子形兜（ながえぼしなりかぶと）」に隠された秘密です。天を突くように高いあの兜は、法華経を写経した和紙によってかたどられ、漆によって固められているそうです。また、甲冑の内側にもびっしりと経文が記されています。つまり、清正公は「法華経」そのものを鎧として身にまとい、物理的な防具以上に、法華経の功德によって守られていたのです。「法華経をたもつ者は、必ず仏の守護を受ける」その教えを信じ、経文で身を包んで戦場に立っていたのだと思います。

清正公の御廟「熊本 本妙寺」



清正公のシンボルと言われる
「蛇の目紋長烏帽子形兜」
写真は熊本博物館所蔵の複製品
本物は本妙寺に所蔵されています

清正公の信仰を今に伝える場所として、熊本市にある「本妙寺」をご紹介します。日蓮宗の名刹であり、清正公の菩提寺であるこのお寺には、彼の遺徳を偲ぶ数多くの物語が残されています。本妙寺の参道には、数多くの灯笼が並んでいます。その多くは、先の大戦、第二次世界大戦の際に奉納されたものだそうです。戦地へと赴く兵士やその家族たちが、「戦国最強の武将にあやかりたい」

「無事に故郷へ帰ってきてほしい」と、清正公の武運と加護を願い、祈りを込めて捧げたそうです。
【下右】参道の多くの灯笼
【下左】本妙寺の頂上にそびえる清正公像



興味深いことに、この浄池廟が建つ位置の標高は、熊本城の天守閣の高さとほぼ同じであるそうです。現代の測量技術を用いて確認しても、その誤差はごく僅かだと言われています。当時の技術でこれほど正確な位置関係を導き出したことにも驚かされますが、そこには「城と廟が常に向き合う」という意図が込められていたのでしょう。廟の近くには「常夜燈」があり、夜ごと明かりが灯されます。後の世、熊本城の歴代城主たちは、天守閣からこの常夜燈の明かりを頼りに、遙か本妙寺の清正公に向かって遥拝したと伝えられています。



【右】常夜燈

【上】清正公が眠る

「浄池廟」



本妙寺を訪れる際、ぜひ注目していただきたいのが「山門（仁王門）」です。この山門、大正時代に建立された日本初の鉄筋コンクリート造りの門の一つとして、国の登録有形文化財に指定されています。設計したのは、築地本願寺などを手掛けた近代建築の巨匠・伊東忠太博士です。

おわりに

戦国の世、明日をも知れぬ日々を生きた武将たちの多くは、仏教を深く信仰しました。そこには、神仏に必勝の力を請い願うという現世利益的な側面もあったでしょう。しかしそれ以上に、いつ命を落としかねない極限状態の中で、己の心を鎮め、死への恐怖を乗り越え、一本の揺るぎない精神の柱を求めていたのではないのでしょうか。加藤清正公にとって、その柱こそが「南無妙法蓮華経」のお題目でした。母から受け継ぎ、戦場でも、城造りでも、唱え続けた南無妙法蓮華経の祈り。私たちもまた、現代という先の見えない不安な時代を生きています。清正公のような強靱な甲冑は持っていませんが、心の中に「南無妙法蓮華経」という祈りの甲冑をまとうことで、どんな困難にも立ち向かう勇気が湧いてくるのかもしれない。



日蓮宗の寺院では、「清正公（せいしょうこう）さま」と呼び、守護神としてお祀りしている寺院が数多くあります。お膝元の熊本県にある寺院が一番多いのですが、調べによりますと、なんと全国で三五九ヶ寺もの寺院が、清正公さまをお祀りしているそうです。一人の武将が、これほどまでに多くの寺院で、そして地域の人々に神様として愛され続けていること。それもまた、清正公の法華経への信仰がいかに本物であったか、という証なのかもしれません。